

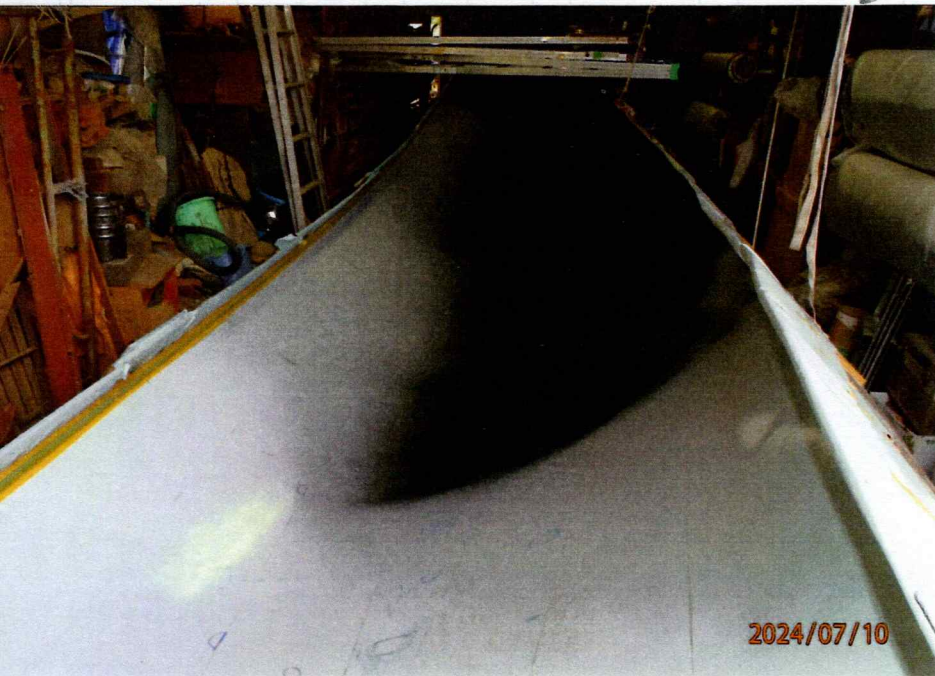
人生も終りなければ、すべて良しと思えるが、2024年7月12日(金)に、水戸市のFELと息子の子に手を貸りて、念願の横山晃設計の9.8mの左舷船体の3枚の基本積層が終了した。前日にガラス繊維を切ったり、前々日に黒のゲルコート吹き付けを行って準備をしておいた。何回やっても大変な仕事で、船の本質を決定する大事なので、積層日が近づくに、そろそろしてくる。船誌がB4サイズの頃、横山晃設計の9.8mのモーター・セーラーの宣伝が船誌に、掲載されたので、三面図(スタディプラン)を購入した。三面図とは、セイルプラン、平面図、側面図の3枚で、安西です。すべての設計図は、それなりの価格ですが、一生の不覚か、死ぬ前日にもセイリングしたい船なのか、設計者と、オーナーの出合いも不思議な御縁でしょう。家も、船も、一流の設計者に依頼出来る、身分にな



れば、人生の成功者でしょう。人生の勝ち組にならなくても、安西な、ストックデザインでも楽しめよう。TIKI-30は、ストックデザインで、2015年末で、15万円でした。

高いか、安い、考え方の問題で、9年前の投資が、マルチ、  
イル部門で、TIKI-30が30位にノミネートされるなんて、  
こいつは春から縁起がいいわいと喜ぶことになる。  
新船を買う人も、中古船でババを引く人も、すべて己の  
判断で行う事で、2024年のマルチ、イル部門の上位  
2隻のカタマランはすべて、億の船でるので、念のため。  
老後、好きな船でゆっくり、好きな所へ行きたいと  
考える。セーラーは多い。大きな、良い船なら、乗せて  
欲しいと集まってくる人は多い。貧乏人的発  
想法で、数人で考えると、船の選択は簡単だ。  
1~4人で考えると、寝床(4床)、トイレ、台所、物入  
れ等で、24~30 呎以上あればOKです。J-24で  
日本一周をした人も知っている。

横山9.8mはモーター・セーラーで、オリジナルは船  
外機仕様の設計で、日本近海のゴミ問題を簡  
単にクリアする発想です。人生の成功者と



うらやましがら  
れる様な、良い船  
に乗りたいもので  
す。良い設計者  
の船は、発想か  
ら違うので、ストッ  
ク・デザインでも  
建造者は、設計  
者の意図する事  
を設計図から

汲み取らなければならない。昔船社から出された HELM 誌に、ある40ft 艇がデッキ全面にチークを張って、セーリングに支障のない改良法を、設計者の横山一郎氏が、詳細な計算で解説されていた。要は、軽快な帆走を楽しみたいなら、重いチークデッキは、やめといった方が得策でしょう。

横山 9.8m の基本積層は、300M+580R+300M の3枚で、朝 7 時に F 氏が来場して手伝ってくれ、Y 氏 10 時から手伝ってくれ、昼食抜きで、午後 1 時過ぎに終了した。

御天気は朝から雨がパラつき、松山で立砂崩れのニュースをやっていた。梅雨末期のあずかしい御天気ですが、水温は最高 24.6℃ で、夕方にこのレポートをまとめている時は 21.8℃ で助かった。当然御天気の神様の御配慮と思えるが、午前中だけ、作業をすると、玄関でつなぎがビショ・ビショで、嫁の手を借りないと、脱げない有様です。来週の作業は、吃水から下の部分に、580R+300M の2枚を張り、それが硬化後、4mm エアマット+300M の2枚を張り、硬化を待つ。硬化後、吃水から上は、M+R+M の3枚、吃水から下は M+R+M+R+M の5枚を張りば良い。

造船所の棟令員は、頭に白のタオルで金巻きをして、汗がガラス繊維に落下するのを防いでいる。まだ、作業員の技能が、工場長レベルに達しないので、思い切って金巻きをする作業者はいない……

F氏は首からタオル掛けて、汗をふきふき作業をされて、御疲れ様でした。半世紀近く前に設計された船に当時魅了されて、何時か自作したいと想い続けた。設計番号446-IIの7.6mを作り、設計番号492の12mを建造した後、ようやく9.8mを作る順番になった。

昔々、毎週のように霞ヶ浦に通って、デインギーでセリングが楽しくて、楽しくて、しょうがなかった。ある人が、木造の古いシーホースを買って、自分でペンキをはかして、手入れされて、御楽りになっていた。杉かヒノ木の船で重かったが、一寸貸してもらって乗ってみて、驚いた。直進性の優れた船でした。霞ヶ浦でも、後に、クルーザーのオーナーになる人が、御楽しみになっていた。昔々の船談に、設計者が単身式根島までクルージングされた話が掲載されているそうですが、あちらに行く前に読みたいものです。石原兄弟がシーホースに憧れて、「太陽の季節」の映画に出て来るヨットがシーホースである事を、今の若い人は知らない。

後に、アランドロンの「太陽がいっぱい」の洋画が大ヒットして、映画館に見に行った。中学生でしたが、女子高校生が一杯の映画館でした。黒沢の「七人の侍」が西部劇になった話は、誰でも知っている。しかし、日本映画の「太陽の季節」が、洋画の「太陽がいっぱい」にリメイクされたと思えますが、石原兄弟は、ズル共、他界され、真疑は不明です。

シーホースに憧れても買えなくて、7.6mや12mを自作後、9.8mを自作して、楽しませて頂いて、面白い人生を過させて頂いている。F氏に手助ってもらった御礼に、〈セピア色の宝物〉のコピーを渡した。

船誌1976年の11月号から連載になった、沖縄の名船の〈カバニ〉の解説と東京湾の名船〈ニタリ〉との相互関係の御話です。北斎の富岳百景の絵なら日本人なら誰でも知っているが、〈ニタリ〉の名称から未知の人が多いため、ヨットに乗っている人なら、知っていて損はない。

YとS人で、黒のケルコートを吹きつけたが、白いカッティングシートが、溶材におかされて、ちぢれ(リフティング)が出てしまった。カッティングシートの補修作業で、アセトンを使用したら、ちぢれが出たので……。

右舷側の艇体製作の時は、マスキングテープとかクラフトテープの幅広のものを採さなくてはならない。又宿題がふえても、夏休みは楽しい。

子供の時『何故に、こんなに楽しい夏休みが、8月一杯で終りなのか……』不満でしようがなかった。『何故にずっと遠に続かないのか……』と思った。

そして、大人になり、苦勞して、木工場を廃業して、マハートを借金で建設した。2005年の小笠原レースから、往復参加出来た。島に行って、帰らないと意味が無い。セイリングヨットで往復しなければ楽しみを半分しか、味わった事にならない。時間を掛けて楽しむ事が、セイリングの悦楽

であり、法楽と思うのですが……。

無職にならないと、真の意味でのセイリングは楽しめない。艇の自作も最初は、乗りたい艇だから、作っていると考えていたが、どうやら、作る事が楽しいから、自作にはまったと思える様になった。

大洗マリーナの3.11の震災前のクレーンの最大幅が5mだったのので、TIKI-30の設計図を15万円で購入した。木の模型を4つ作って、準備学習をしてみた。左右のデッキハウスの形状が異なっているので、設計を変えて、左右同じキャビン・ハウスにした。

気を付けて見た人ならわかるが、小生の自作した、コックピット・フロアーの左右両角は45°の傾面になっている。強度、剛性もアップするが、45度の三角形は、斜辺は、他の二辺の和より短い。よって軽い……よって、手間暇は、喰うが、何時も45°の傾面をつけて、軽量化、強度、剛性をアップしている。

現在に至るまで、指摘してくれた人は皆無なので、自作の楽しみに、はまった人は少ない様です。

7/12は歯科の予約日なのを、すっかり忘れて〈78歳の歓喜〉に没頭した。翌7/13の朝も低温で、早朝起き出して、本文をまとめられた。

7/12の早曉トイレに起きたら、左足の甲がしびれて立てなくなった。タオルケットを掛けなくて、足を冷したせいと思われた。暑い日々が続いて、窓を開けたまま寝入ってしまった暑と思われる……。以来、タオルケットを掛ける様にしている。

R  
67/  
137  
13